

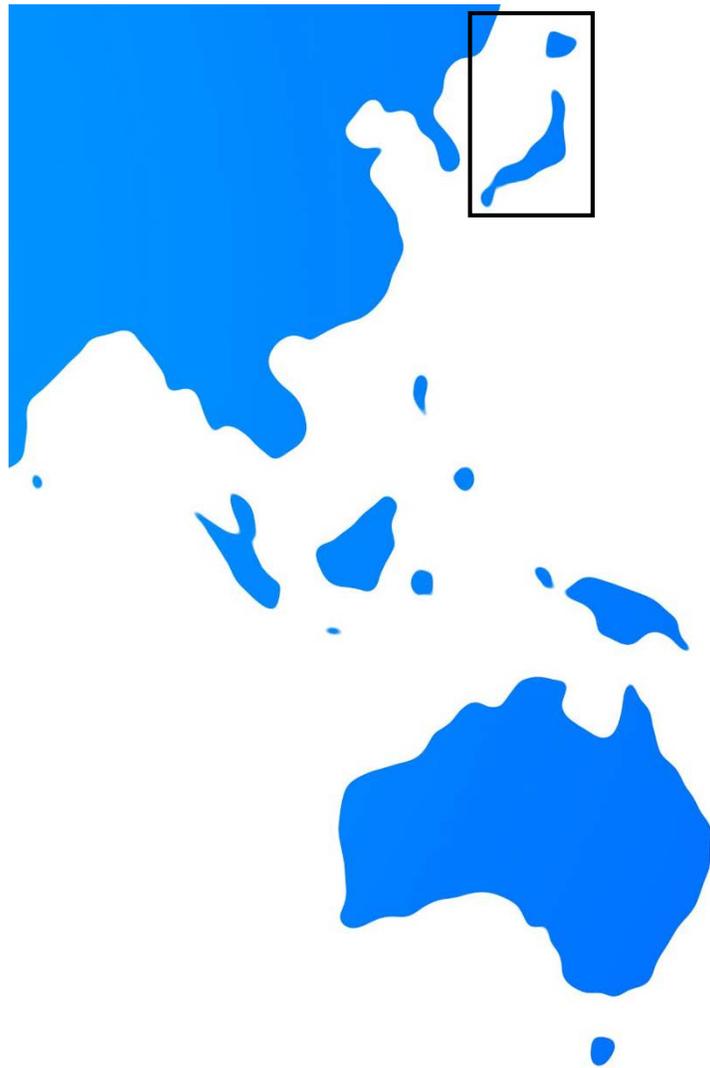
# My Japan experience

パックウッド・ダニエル (Daniel Packwood)



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

# 自己紹介

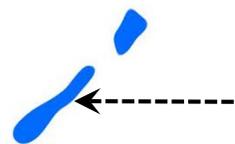


京都大学 WPI-iCeMS  
講師・主任研究者 (2016~)

JST さきがけ  
数学協働領域 (2014 - 2018兼任)

東北大学 WPI-AIMR  
特任助教 (2012-2016)

京都大学大学院理学研究科化学専攻  
JSPS外国人特別研究員  
(2010 - 2012)

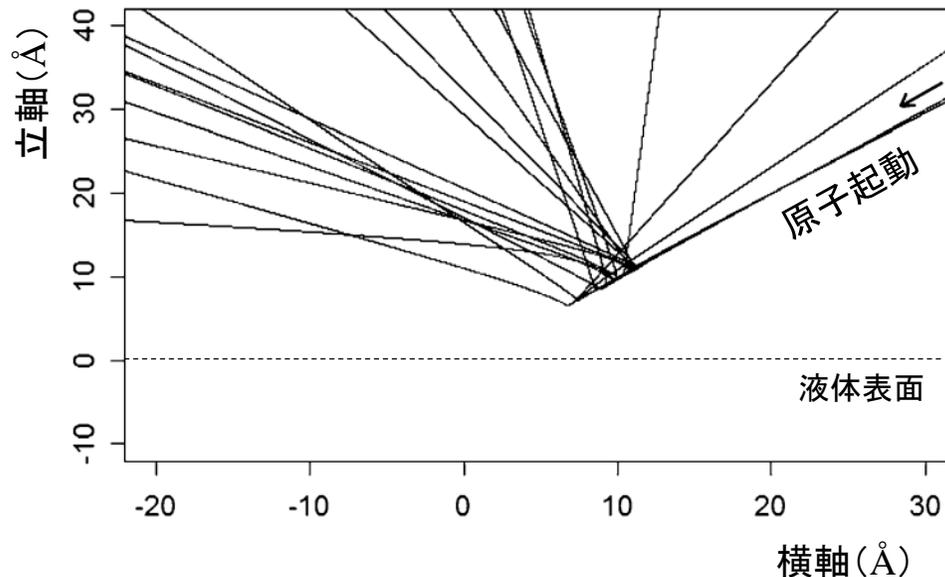
A blue silhouette map of Japan. A solid black arrow points from the text '京都大学 WPI-iCeMS' to the Kansai region. Two dashed black arrows point from the text '東北大学 WPI-AIMR' and '京都大学大学院理学研究科化学専攻' to the Tohoku and Kansai regions respectively.

カンタベリー大学 (2010年卒業、  
化学専攻、統計学副専攻)

# 来日に至った経緯【1】

## 大学院生の時の研究課題

- 確率微分方程式と非平衡統計力学を基に液体表面にて原子散乱に関する理論の構築



それまで日本のことをあまり考えてなかった私だが、あることが気になった。



伊藤清

- 京大の数学者
- 確率微分方程式に関する理論を作った人。



久保亮五

- 東大の物理学者
- 非平衡統計力学に関する理論を作った人。

もしかして、この分野は日本人研究者によって設けられたのか？！

# 来日に至った経緯【2】



HOPE MEETINGS  
with Nobel Laureates

■ 第2回HOPEミーティング開催概要

日時：2009年9月27日（日）～10月1日（木）  
会場：ザ・プリンス箱根  
テーマ：Art in Science  
対象分野：化学及び関連分野（物理学、生物学等）  
主催：（独）日本学術振興会

<https://www.jsps.go.jp/hope/gaiyou2.html>



- アジア太平洋から大学院生が50人程度集まり、日本の学生と交流しながら日本科学リーダー（野依良治先生、小林誠先生、中村栄一先生など）による講演を聞いた。
- レベルはビックリするほど高い。学生の研究は素晴らしいし、講演もとても印象的。見たことがない研究も見た。 →**それでは、日本の大学でポスドクしよう！**

# 日本の研究機関で働くことの利点

- **コンパクトで賑やかな研究コミュニティ**  
どこでもいつでも何か起きている（学会、交流会、など）。
- **研究設備は最先端**  
（研究機関によって）
- **インフラは最先端**  
新幹線は日本各地の研究コミュニティを強く結びつけている。
- **イノベーション活動が高い**  
WPIセンターはもちろん特にそうです。  
共同研究・学際研究は重視されています  
→ “新学術”、“新しい学問”などは語彙に入っている
- **国際的交差点**  
ユーロップ、アメリカ、アジアの研究者が容易に訪問できる国で、  
セミナーや学会で世界の研究状況を概ね把握できる。  
（でも、実際の交差点のように海外研究者は長く滞在しない。）

# 日本の研究機関で働くことの難しさ

- **最初は不透明 情報提供はよくない。**

「XXXさん、何をしていますか？」

「科研費の申請書を書いています」

「科研費は何ですか」

「研究予算です。日本のメインな研究ファンドです」

「あ、僕も書きたいです！」

「締め切りは明日ですよ！」

- **イノベーションが高いが、断固反対の声もあります。**

学会やワークショップで面白いアイデアを激しくたたこうとする人はたまにいる。

- **根回し**

キャリアを発展するには有力者の知り合いがいるほうが良い。

# WPIにきた経緯【1】 京大理学部から東北大AIMRへ

**2012年1月 ポスドクの最後の1年に向かい、助教の仕事を探そうとしている。。。**

- 「化学と数学」というマニアックな接点で研究していた人物で、普通な理学部で上昇できるか非常に不安があった。

**2012年2月 東北大学のWPI-AIMRによる「インタフェースユニット」の募集**

- 「材料科学と数学をつなげるために、数学と自然科学の両方を理解している方が望ましい」という内容の求人広告をJREC-INで見つけた。
- AIMRとWPIのことを初めて聞いた。数学と異分野の協働研究を研究機構レベルで重視されている点が私とかなり合っていると思った。
- インタビューを通過し、インタフェースユニットの助教に採用された。  
→ 理学部から離れて、WPIの世界へ入りった。

# WPIへの経緯【2】

# 東北大AIMRから京大iCeMSへ

## 2014年12月 第4回WPI合同シンポジウム

- 高校生向けアウトリーチイベントで、AIMRを代表して参加。
- 後の懇親会でiCeMSの主任研究者Ohtan Wang先生と話し合っ、そのあとに共同研究を始めた。

## 2015年 ～共同研究が続いていた。。。～

- 共同研究でiCeMSをたびたび訪問して、iCeMSの研究者と知り合った。
- 主任研究者の募集広告について聞いて、申請するように薦められた。

## 2016年 iCeMSへの就任

- 1月にインタビューが行われて、同じ日になんと採択されました。

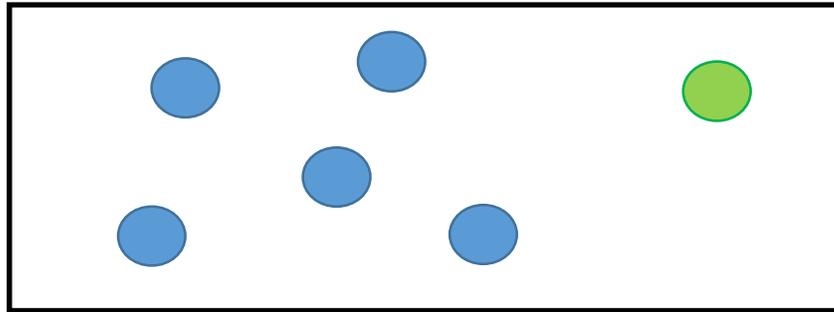
**WPI拠点の間の交流は重要です！**

# 外国人研究者受け入れ態勢について

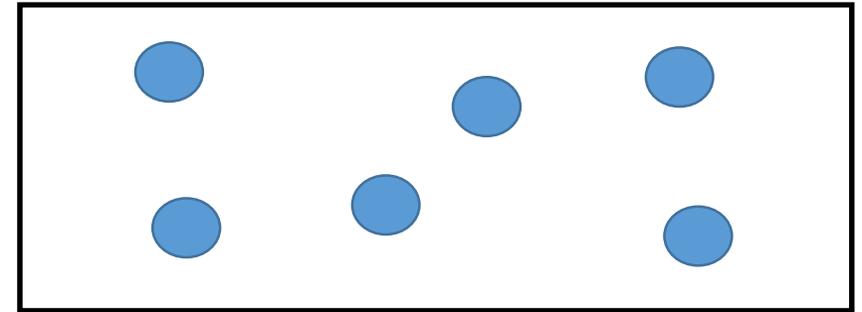
- AIMRとiCeMSの場合、事務手続きを丁寧に説明してくれる専門スタッフがいるので、改善すべきところは特にはないと思います。

(事務手続きは海外と比べて圧倒的に多いですけど)

- 日本では研究室レベルで外国人研究者に対する考え方はよくない場合もある。



**良くない研究室** 外国人と日本人を区別する  
外国人研究者は正式なメンバーではない。  
ビジターだけで、我々と違う目的がある。



**良い研究室** 外国人と日本人を区別しない  
全員はグループメンバーで、  
みんなは共通目的がある。

# 日本で研究したい研究者に伝えたいこと

- アクティブな研究グループを見つけてください。  
論文をよく出すグループ、国際シンポジウムに出席するグループ、面白い研究をやっているグループ、長期的目標を追いかけているグループ
- 外国人研究者が10%以上、女性研究者が20%以上の研究機関を見つけてください。この基準が満たせる研究機関は、diversityを重視しています。
- 日本に来られたら、グループメンバーと仲良くなるように頑張ってください。周りの方と信頼関係を早めにできれば研究をスムーズに進められます。
- 日本で長期間で働きたいなら日本語を必ず勉強してください。